

2025年5月18日(日)

日本基督教団 大宮教会

復活節第5主日

大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
(マタイによる福音書 28 : 19~20)

朝第1礼拝 9:00~10:00

朝第2礼拝 10:30~11:45

夕礼拝 18:00~19:00

＜神の招き＞

前奏 ① 主キリスト、我らにみ顔を向け給え パッサハ
② 主イエスよ、我らに清きみ顔向け ベーム
③ 主よ、われ汝に望みをおく パッヘルベル

招きの詞 ヨハネによる福音書 11 : 25~26

交読詩編 98 : 1~9

讃美歌 2

＜神の言葉＞

聖書 詩編 37 : 1~11 (旧約 聖書協会共同訳 853 頁)
マルコによる福音書 13 : 1~13 (新約 聖書協会共同訳 87 頁)

祈禱美歌 53

説教 「最後まで耐え忍ぶ者」 熊江秀一牧師

祈禱

讃美歌 532

＜神への応答＞

使徒信条

献金

主の祈り

宣教報告 ② ③

頌栄 27

派遣と祝福

後奏 ① 天にましますわれらの父よ パッサハ
② いと高き神に栄あれ フェッター
③ いざ、わが魂よ、主をほめまつれ パッサハ

宣教報告 ①

今週の御言葉

(マルコによる福音書 13 : 10-13)
こうして、まず、福音がすべての民族に宣べ伝えられねばならない。連れて行かれ、引き渡されたとき、何を言おうかと心配してはならない。その時には、あなたがたに示されることを話せばよい。話すのはあなたがたではなく、聖霊なのだ。兄弟は兄弟を、父は子を死に渡し、子は親に反抗して死なせるだろう。また、私の名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」。

次週の礼拝 (5月25日) 永眠者記念礼拝

① 9:00、② 10:30 説教「命はキリストと共に」 熊江秀一牧師 詩編 23 : 1~6、 コロサイの信徒への手紙 3 : 1~4 交読詩編 95 : 1~11 讃美歌 385、484 (奉唱 569)、575、27	墓前礼拝 14:00 青葉園教会墓地 説教「土の器に宝を納めて」 熊江秀一牧師 コリントの信徒への手紙二 4 : 7~10
ワーシップ (賛美礼拝) 14:00~15:00 説教「神の国」佐藤潤伝道師 ルカによる福音書 17 : 20~21 賛美：主のまなざしの中、わがたましいよ歌え、 主は良いお方、慕い求めます、神の国と神の義、主の祈り、花も他	③ 18:00 説教「み言葉の実現を信じる者」佐藤潤伝道師 詩編 113 : 1~9、 ルカによる福音書 1 : 39~56 交読詩編 95 : 1~11 讃美歌 7、55、175、27

*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈禱当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、③は夕礼拝。

■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 定期教会総会での恵みと課題を覚えて
4. 永眠者記念礼拝と墓前礼拝の為に
5. 第 75 回関東教区総会・准允式の為に
6. 関東教区の 140 の教会・伝道所の為に
7. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に
8. 病気の兄姉の為に

*関東教区お祈りカレンダー 新発田教会 東中通教会 新潟教会

◇先週の説教より「神に喜ばれるのは」マルコによる福音書 12：38～44、ホセア書 6：4～6 熊江秀一牧師

主イエスは、律法学者とやもめの姿を通して、神に喜ばれることを示す。

まず主は「律法学者に気をつけなさい」と告げる。彼らは自らの地位や称賛の中、高ぶり、名誉や利益を求めるようになった。主はその律法学者の高ぶり、食欲の姿に警告を与えた。しかし私たちは律法学者への非難だけで終わってはならない。律法学者と同じ過ちを犯さないようにという私たちへの問いかけとして聞くことが大切である。

この姿と対照的に語られたのは貧しいやもめである。エルサレム神殿では献金をする時、祭司に自分の名前と献金の目的、金額を告げた。祭司はそれを大声で告げた。それを群衆は聞き、その額によって歓声をあげた。主はその「様子」を見ていた。その中で一人の貧しいやもめがレプトン銅貨 2 枚を捧げた。今の百五十円ほどである。主はやもめの献金を見て「誰よりもたくさん」

捧げたと宣言する。金持ちたちは有り余る中から捧げた。しかも自分の名誉と利己心のために。しかしこのやもめは自分が生きるに必要な「生活費を全部入れた」。「生活費」は「生命」「いのち」とも訳せる。彼女は自分の生命、全存在を生ける神に委ねて捧げた。ここに私たちの礼拝の姿、捧げる心がある。しかしこのやもめの姿以上に心に留めるべきことがある。それは主のまなざしである。主はやもめの心の奥深くまで見て下さった。そのように主は私たちのことをすべて見て、理解される。さらに主のまなざしは、高ぶりや食欲に生きてしまう律法学者にも注がれる。

そして主は私たちのすべてを見て、知った上で、十字架の道を歩み自らを罪の贖いとして捧げ、私たちに救いの道を備えて下さった。主の十字架の愛のまなざしの中、やもめが捧げたその心を、礼拝の心として歩もう。